

令和6年度 IDE大学セミナー 趣意書

「大学の国際化の新側面－競争と協創のあいだで－」

ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて行き交うグローバル化が進展する中、時代や社会の変化に主体的に対応すべく、わが国の大学は教育・研究の両面において国際化していくことを求められている。特に2000年代以降は、「留学生30万人計画」やスーパーグローバル大学創成支援事業といった政府施策に先導されるかたちで、多くの大学で国際化に向けた取り組みが積極的に推進されるようになった。また、従来国際化から一定の距離をとっていた中小規模大学の「非国際系」学部・学科等においても、国内の18歳人口の減少を受け学生募集戦略の一環として外国人留学生の獲得に乗り出すケースが見られ、特に教育面で国際化をはかる必要性に迫られている。このように国際化は、規模の大小や分野の違い等に関わらず、わが国の大学における主要な共通課題の1つとなっている。

教育面での国際化に向けた取り組みの例としては、留学生の受け入れ・送り出しや外国人教員の採用といった人的交流の活性化、海外大学との連携による相互単位認定や国際共同プログラムの開発、英語で受講できる授業科目の新增設やすべての授業を英語で受講できる学位プログラムの設置などが挙げられる。さらに2024年には国内の大学が日本の学位を授与する学部を初めて海外に設置し、わが国の大学はトランスナショナルな高等教育の場へとさらに一歩踏み込んでいくことになった。このように大学の国際化に向けた取り組みには様々なものが存在しているが、その主たる目的は大学間あるいは国家間の国際的な「競争 (competition)」において優位を占めることにあるといえよう。

一方で、大学の国際化に向けた取り組みには競争以外の新たな側面も垣間見える。それは、大学やその構成員が国や地域を越えて互いに手を携え、ともに何かを創造していこうという、いわば「協創 (collaboration)」に向けた動きである。たとえば一部の大学で実施されている海外教育協力プログラムには、教育の機会均等という普遍的な価値を国境を越えて実現していこうとする姿勢が見られる。また上述した海外大学との連携による国際共同プログラム開発には、大学の国際的な競争力向上といった目的とともに、未来の世界を担う若者たちの相互交流・相互理解の増進を通じた多文化・多元社会の実現といった目的も存在している。さらに外国人留学生の誘致が出身国の教育との効果的な接続や学位取得後の定着支援までを射程に入れておこなわれる場合、学生募集戦略や海外人材の獲得といった範疇を超え、共生社会の実現に向けた有効な手段となる可能性も秘めている。

以上のような大学の国際化をめぐる2つの「きょうそう」は、いかなる可能性と課題をわれわれに提示しているだろうか。また、両者の関係性やバランスのあり方についてどのように考えることができるだろうか。本セミナーでは、基調講演を通じてわが国における大学の国際化の現況や諸課題について共通理解を得たのち、日本留学の経験を持つ外国人教員、国際共同プログラムや海外教育協力プログラムの担当者など、それぞれの立場から大学の国際化に関与・参画してきた当事者の話題提供を踏まえて議論を深めていきたい。